

一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ

事業報告書

(平成 30 年 (2018 年) 4 月 1 日から平成 31 年 (2019 年) 3 月 31 日まで)

事業の総括

2018 年度の当法人の活動は、神奈川県からの委託を受けておこなう「アドバイザー相談事業」と「かながわコミュニティカレッジ」の運営が中心となりました。

「アドバイザー相談事業」では、県内で活動する非営利法人やボランティア団体などに対し、当法人の会員を中心とする相談員がシフトを組み、交代で相談対応・情報提供を行いました。また、県内の公設市民活動支援施設（以下、「支援センター」）の施設長対象の会議、および職員対象の研修会の企画・運営を担い、県内の支援センター職員間の相互研鑽・交流の場づくりに貢献しました。さらに、県内の支援センターから職員インターンを受け入れ、県民活動サポートセンターの相談窓口で実際の相談対応の場に陪席していただき、相談対応業務の実例を学ぶ場を提供しました。

4 年目の受託となる「かながわコミュニティカレッジ」の運営では、ボランティア・NPO 活動に取り組む市民等に向けて年間 37 本の講座を開講し、受講者総数は 1,260 人となりました。当法人は、コミュニティカレッジの事務局として、県内で地域課題の解決や地域の活性化に向けた活動に取り組む人づくりを支えています。

2018 年度の自主事業としては、「地縁組織と NPO・大学等の協働を生み出すコーディネートのありかたを考える」セミナーをコミュニティカレッジ連携講座として開催しました。講師に法政大学法学部教授 名和田是彦さん、事例発表者として、三田サポートわなり代表 塩沢和美さん、追浜商盛会代表 織田俊美さんを迎え、認定 NPO 法人ぐらす・かわさきの田代美香さんのコーディネートの下、地域のつながりづくりや活性化に貢献するコミュニティカフェの有用性や、地域づくりに必要な協働をうみだすコーディネーターとして大事な要素などについて意見が交わされました。

2018 年 11 月 12 日 (月) 19 時～21 時、かながわ県民センターにて、休眠預金活用制度に関する学習会【休眠預金の可能性とリスクを考える】を開催しました。この制度の関心のある方、県内で中間支援活動や助成を行っている団体の方など 21 名が参加して、休眠預金等活用制度の概要、制度の根幹となる基本方針の審議経過やその内容についての情報を共有しました。さらに「現場視点で休眠預金を考える会」が作成した意見書をもとに、制度に対する懸念や課題について意見を交換しました。

各事業活動の詳細と成果は次葉以降を参照ください。

1 多様な主体による対話と協働の場づくり

(1) 「地縁組織と NPO・大学等の協働を生み出すコーディネートのあるかたを 考える」講座の開催（かながわコミュニティカレッジ連携講座）

2019年2月6日（水）14:00～17:00、かながわコミュニティカレッジ講義室にて、「地縁組織と NPO・大学等の協働を生み出すコーディネートのあるかたを考える」講座を開催しました。

当日はオープニングレクチャーとして、名和田是彦先生（法政大学法学部教授）が、地域のつながりづくりの重要性、すべての人に開かれた地域社会づくりに向けたコミュニティカフェの意義・有用性などについて講演しました。

その後、事例紹介として、三田サポートわなり代表 塩沢和美さんが、川崎市多摩区で取り組む「みた・まちもりカフェ」「みた・まちもり寺子屋」の活動を紹介。大学教授のサポートを得て始まった活動の成り立ち、カフェを拠点にした様々なプログラム等の話がありました。もう一つの事例紹介として、追浜商盛会代表 織田俊美さんが、横須賀市追浜町で、NPO 法人アクションおっぱま、追浜観光協会、協同組合追浜商盛会が共同運営するコミュニティスペース「こみゅに亭」を紹介。商店街の空き店舗対策として、関東学院大学と連携して「横須賀おっぱまワイン」を開発した経緯などを説明されました。

休憩を挟んだ後半は、コーディネーターの田代美香さん（認定 NPO 法人ぐらす・かわさき副理事長）の進行のもと、前半の登壇者によるディスカッションを行い、事前に集めた参加者からの質問への応答なども交え、若者や自治組織との連携状況、コーディネーターの資質とは、などの質疑応答がありました。

最後に、会場の参加者が 4～5 人ずつグループになり、互いの活動状況や本日の学びについて意見を交わし、会場全体で共有しました。

（本講座は、認定 NPO 法人ぐらす・かわさきの企画協力を得て開催しました。）

○タイトル：地縁組織と NPO・大学等の協働を生み出すコーディネートのあり方を考える

○日 時：2019年2月6日（水）14時～17時

○場 所：かながわコミュニティカレッジ講義室2

○参加者：41名

○プログラム：

・オープニングレクチャー

講師：法政大学法学部教授 名和田 是彦さん

・事例紹介 三田サポートわなり代表 塩沢 和美さん

追浜商盛会代表 織田 俊美さん

・ディスカッション

・グループトーク

コーディネーター：認定 NPO 法人ぐらす・かわさき

副理事長 田代 美香さん

(2) 市民団体・民間非営利組織（NPO）の協働力の向上

地域の様々な課題解決に向け、市民団体・NPOが活動基盤を強化し、他の主体と協働・連携して活動に取り組む力をつけるための支援事業を行いました。

(1) アドバイザー相談事業（かながわ県民活動サポートセンターより受託）

神奈川県受託を受け「アドバイザー相談事業」の運営を始めて7年目となります。県民活動サポートセンター9階の「ボランティア活動相談窓口」にアドバイザーを交代で配置し、2018年4月1日から2019年3月31日まで、毎週火曜～土曜の13時～17時（水曜日は13時～19時）、来訪・電話・メールを通じて市民、非営利団体（市民グループ、NPO法人等）、企業の方からの相談に対応しました。

相談件数は年間で491件でした。前年度に比べ件数はほぼ横ばいです（2017年度は486件）。テーマ別相談、セミナー付き相談、出張相談などの相談会を企画開催し、幅広い相談ニーズに対応しました。また、相談員の相談対応力を向上させるため、隔月で相談員会議をもち、相談対応事例の共有を行いました。

さらに、県内の市民活動支援施設の支援力向上をめざし、支援施設のスタッフ研修会、施設長会議（CEOミーティング）を県と協働で企画・開催しました。

○テーマ別相談会の実施

予め開催日を決めてテーマを特定した相談会を開催しました。「団体運営・法人設立」に関する相談会を毎月開催した他、NPO法人税理士による公益活動サポートセンターの協力を得て「NPOの会計・税務」に関する相談対応を隔月で開催しました。また、日本政策金融公庫の協力を得て「事業計画・資金調達」に関する相談会も行いました。

- ・「団体運営・法人設立」（9回実施、相談件数計16件）
- ・「NPO会計・税務」（6回実施、相談件数計13件）
- ・「事業計画・資金計画」（1回実施、相談件数計1件）

上記のほか、「助成金」「NPOと企業の連携」「企業の社会貢献」をテーマに相談会を開催しました。

○セミナー付き相談の実施

小規模な学習会と相談対応をセットにしたセミナー付き相談会を2回開催しました。

平成30年10月30日「NPOの資金調達・資金獲得」
（講師：徳永洋子さん ファンドレイジング・ラボ代表） 参加者10名

平成30年11月28日「企業の協力を得るコツ」
（講師：池上直樹さん CSR・協働コーディネーター） 参加者9名

○出張相談の実施

相談対応の一環として、当団体アドバイザーが県内 3 か所へ出張し、市町支援施設と連携して市民団体向けの個別相談会を設けました。出張先では、当地の市民活動センターの職員の方々にも可能なかぎり陪席をお願いし、相談対応の実例を学んでいただく機会を提供しました。

- ・いせはら市民活動サポートセンター
日程：平成 30 年 10 月 9 日（火）
相談従事者：2 名、相談件数：5 件
- ・三浦市市民交流スペース
日程；平成 30 年 12 月 5 日（水）
相談従事者：3 名、相談件数：4 件
- ・おだわら市民交流センターUMECO
日程：平成 31 年 3 月 5 日（火）
相談従事者：2 名、相談件数：2 件

○支援センター職員のインターン受入れ

県内の市民活動支援施設における相談対応力向上をめざし、希望する支援施設・団体より、かながわ県民活動サポートセンターの相談窓口職員インターンを受け入れました。2018 年 7 月～10 月の間に下記の 6 施設より 14 名が半日間のインターンとして参加しました。実際の相談対応の場に陪席して記録を取り、当団体のアドバイザーと様々な情報交換をすることで、相談対応業務の実例を学んでいただきました。

参加支援施設：にのみや町民活動サポートセンター	(1 名)
横浜市なか区民活動センター	(2 名)
横浜市ほどがや市民活動センター	(4 名)
秦野市市民活動サポートセンター	(2 名)
鎌倉市市民活動センター	(2 名)
ひらつか市民活動センター	(3 名)

○支援センター研修会等の開催

県内の公設市民活動支援施設の職員研修会の企画・運営を担い、支援センター職員間の相互研鑽・交流の場づくりに貢献しました。

- タイトル：平成 30 年度ボランティア活動支援施設 CEO ミーティング
- 日 時：平成 30 年 7 月 9 日（月）13 時 30 分～17 時
- 場 所：かながわ県民センター11階 かながわコミュニティカレッジ講義室
- 対 象：県内ボランティア活動支援施設長、またはそれに準ずる方
県内ボランティア活動・市民協働等の所管課長またはそれに準ずる方
- 参加者：34 名

○プログラム：

- 1) 話題提供「SDGs（持続可能な開発目標）を活かした地域づくりと支援センターの役割」

講師：新田 英理子さん（一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク 事務局長代行、認定特定非営利活動法人 日本 NPO センター特別研究員）

- 2) ワーク「こんなことも SDGs !?」

新聞記事を使って、身近な社会問題とSDGsを結びつけるワークをグループに分かれて行いました。

進行役：小林 由高（逗子文化プラザ市民交流センター 副館長）



○タイトル：ボランティア活動支援施設スタッフ研修会 in かながわ 2018

○日 時：平成 30 年 9 月 3 日（月）13 時 30 分～17 時 30 分

9 月 4 日（火）9 時～12 時

○場 所：マホロバマインズ三浦本館 13 階研修室

○対 象：県内ボランティア活動支援施設スタッフ・役員及び担当自治体職員

○参加者：23 名（9 月 3 日）、24 名（9 月 4 日）、うち宿泊者 19 名

○プログラム：

- 1) 9 月 3 日「相談対応力アップ研修」

- ・知っておきたいNPO法人の基礎知識（レクチャー）

講師：手塚明美（ソーシャルコーディネートかながわ 理事長）

- ・相談業務について（対応の基本姿勢、記録の取り方）

講師：藤井京子（ソーシャルコーディネートかながわ 理事）

- ・ケースを使った相談対応ワークショップ（ロールプレイ）

進行：藤枝香織（ソーシャルコーディネートかながわ 副理事）

- 2) 9 月 4 日「市民活動支援センターの事業の成果を考える」

講師：NPO 法人 CR ファクトリー 五井渕 利明さん

アウトカム（成果）を意識したロジックモデルづくりを学び、市民活動支援センターがおこなう事業の成果は何か、その成果をどう見せるのか、グループごとに討議しながら考えました。



休眠預金活用制度に関する学習会の開催

2018年11月12日（月）19時～21時、かながわ県民センターにて、休眠預金活用制度に関する学習会【休眠預金の可能性とリスクを考える】を開催しました。この制度に関心のある方、県内で中間支援活動や助成を行っている団体の方など21名が参加して、休眠預金等活用制度の概要、制度の根幹となる基本方針の審議経過やその内容についての情報を共有しました。さらに「現場視点で休眠預金を考える会」が作成した意見書をもとに、制度に対する懸念や課題について意見を交換しました。

○タイトル：「**休眠預金活用制度**」に関する学習会
【**休眠預金の可能性とリスクを考える**】

○日時：平成30年11月12日（月）19時～21時

○場所：かながわ県民センター7階 711ミーティングルーム

○対象：「休眠預金活用制度」の概要、地域への影響についてご関心をお持ちの方（NPO、中間支援団体、企業・行政・金融機関・研究者の方など）

○参加者：21名

○話題提供者：坂本憲治さん

（NPO法人市民社会創造ファンド シニア・プログラムオフィサー）

○内容：

- ・休眠預金等活用法とその活用の仕組みについて
- ・休眠預金に関連した国と民間のこれまでの動き
- ・休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針について
- ・休眠預金等に関する資金の活用に関する意見について（現場視点で休眠預金を考える会）

県域の中間支援組織としての仲介活動

認定NPO法人日本NPOセンターの依頼を受け、明治ホールディングス株式会社株主優待で寄贈されるお菓子の寄贈先として、「広域避難をする子ども達を支援する団体」及び「子どもの貧困問題に取り組む団体」として県内の2団体を推薦し、同団体にお菓子が届く手配をしました。

寄贈先団体：NPO法人よこはま・七つ星／NPO法人ぐらす・かわさき

講師・委員の派遣

自治体や各地の支援組織、NPOなどの依頼に応じてセミナー・研修会・会議への講師・アドバイザー等の派遣を行いました。

【講師・委員・アドバイザーなど派遣実績】

- ・ 川崎市指定 NPO 法人審査会委員 <2018 年度、藤枝>
- ・ かながわ人生 100 歳時代ネットワーク会議参加<2018 年度、手塚、藤枝>
- ・ 横浜市立大学国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース講義
<2018 年 4 月、手塚>
- ・ 横浜国立大学成長戦略研究センター講義<2018 年 5 月、藤枝>
- ・ 神奈川県消費生活課「消費者教育担い手協働・連携事業」審査委員
<2018 年 6 月、手塚>
- ・ ボランティア参加導入研修（生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ）
<2018 年 9 月、葉石、藤枝>
- ・ 人生 100 歳時代の設計図」を考えるフォーラム（神奈川県）<2018 年 10 月、
手塚>
- ・ 環境学習リーダー養成講座「市民活動について」（神奈川県環境科学センタ
ー）<2018 年 11 月、手塚>
- ・ 武蔵野プレイス市民活動マネジメント講座「NPO 法人設立準備」（公益財団
法人武蔵野生涯学習振興事業団）<2019 年 3 月、手塚>
- ・ 実務講座「はじめての助成金申請」（秦野市市民活動サポートセンター）
<2019 年 3 月、藤井>
- ・ 集まれ日本語ボランティア「団体運営について」（神奈川県国際言語文化アカ
デミア）<2019 年 3 月、手塚>
- ・ 協働のまちづくり研修会（愛川町）<2019 年 3 月、手塚>

2 市民や企業による寄付・社会貢献活動への参加促進

(1)かながわコミュニティカレッジ事務局の運営（かながわ県民活動サポートセンターより受託）

かながわコミュニティカレッジは神奈川県が開設する、地域で活動する県民の「学びの場」です。ボランティアや NPO など、地域課題の解決や地域の活性化に向けた活動に取り組む人づくりを支えています。当団体は「平成 30 年度かながわコミュニティカレッジ運営業務」をかながわ県民活動サポートセンターより受託し、同カレッジ事務局の運営を担いました。コミュニティカレッジの運営は平成 27 年度より毎年委託を受けており、今年で 4 年目となります。

カレッジでは様々なテーマで年間計 36 講座と、大和市内で地域支え合い講座を 1 講座開講し、事務局は講座の企画調整や広報・実施運営を行い、ボランティアや NPO 等の活動を行う個人・団体を支援しました。受講者総数は 1,260 人となり、講座を修了する人の割合は、全講座平均すると 85%に達しています。

かながわコミュニティカレッジでは、NPO 法人、一般社団法人、社会福祉法人などの非営利団体や市民グループが独自に企画した講座を開講しています。全 37 講座のうち当団体自身が企画実施した講座は以下のとおりです。

【2018年度コミカレ講座のうち当団体が企画実施した講座】

講座名称等	開催日程	受講者数
人生 100 年時代の NPO 体験	7/21～9/22 (全 6 回)	24
NPO 会計講座 (基礎編) 協力：NPO 法人税理士のための公益活動サポートセンター	8/23～9/13 (全 4 回)	30
NPO 会計講座 (実践編) 協力：NPO 法人税理士のための公益活動サポートセンター	10/12～10/26 (全 3 回)	28
新聞記者に学ぶ情報発信スキルアップ講座 協力：朝日新聞ジャーナリスト学校	11/6～11/27 (全 4 回)	46
地域支え合い講座 (大和市) つながり、支え合うまちづくりを目指して	1/28～2/22 (全 4 回)	35

(2) かながわ人生 100 歳時代ネットワーク会議への参加

神奈川県では「かながわ人生 100 歳時代ネットワーク」という行政、大学、企業、NPO 等が連携・協働するためのプラットフォームをつくり、県民一人ひとりが生涯にわたり生き生きと充実した生活を送ることができる社会を実現するため、「学びの場」から「活動できる場」へと繋ぐ仕組みの創出を目指しています。

当団体は、NPO であり中間支援団体としての立場からこのネットワークに参加し、同ネットワークの今後について検討する会議のファシリテート役を務めるとともに、市民の学びの場や活動の場に関する情報共有を行いました。

3 総会・理事会の開催状況

2018 年 5 月 22 日 第 1 回理事会
 2018 年 6 月 12 日 年次社員総会
 2018 年 6 月 12 日 第 2 回理事会
 2018 年 12 月 18 日 第 3 回理事会

以 上